

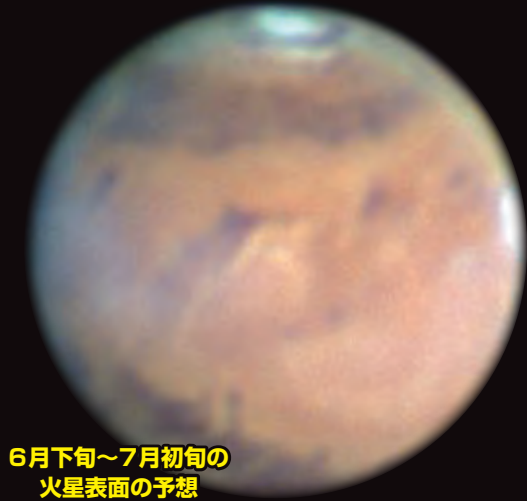
7月31日

15年ぶりに火星が大接近！

地球の1つ外側を回る赤い惑星・火星が、7月31日、15年ぶりに大接近する。火星は太陽の周りを約687日で1周している。地球が火星を追い抜く瞬間が接近するタイミングで、約2年2か月周期でやってくるんだ。

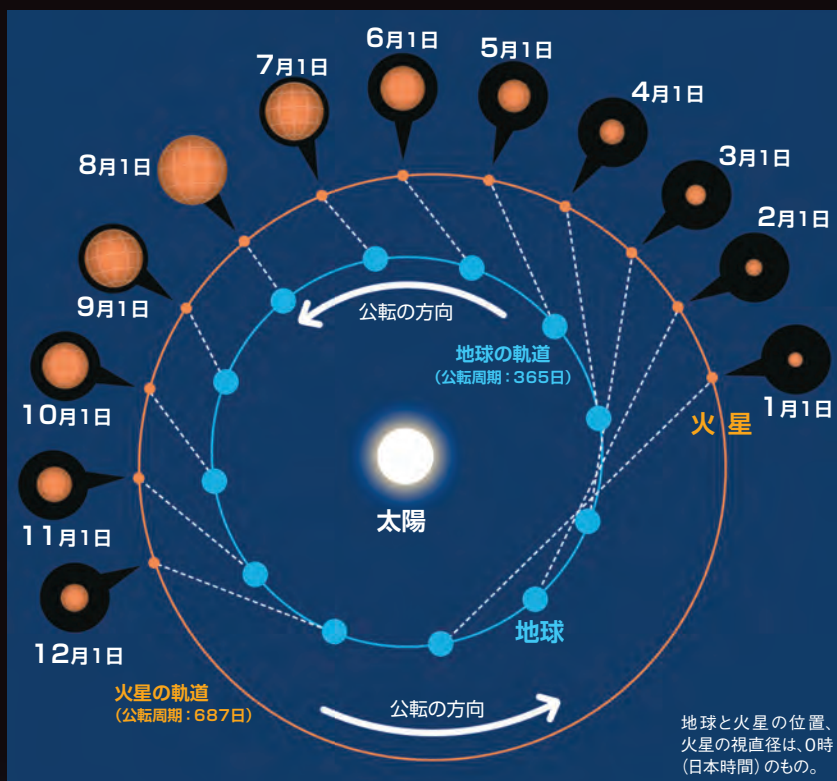
でも、接近のたびに両者の距離は変化するの、毎回「大接近」となるわけではない。その理由は、地球は太陽を中心にコンパスで描いたような真円に近い軌道なのに対して、火星は少しいびつな楕円軌道になっているためだ。火星が太陽に近い「近日点」付近で地球に接近すれば「大接近」、太陽から遠い「遠日点」付近で地球に接近すると「小接近」となり、その距離・大きさは2倍近くにもなるのだ。

大接近となるタイミングは15～17年に一度！今回を逃すと次回の大接近は17年後……。キミは何歳!? ということで、今年は天



6月下旬～7月初旬の火星表面の予想

体望遠鏡でしっかり火星を観察しておこう。7月31日・大接近の前後数日だけでももったいないので、ぜひ春から準備を始めて長期間、継続観察し、大きさ・明るさが激変してゆく火星の変化を追って楽しもう！



2018年・火星と地球の距離の変化

7月31日の大接近時には、地球との距離5759万km、明るさは-2.8等級に達し、木星よりも明るくなる。3月中旬では大接近時の約3.3倍の距離があるが、火星観察に慣れるため早めに準備をして追跡観察をしよう。大接近の前後2か月くらいは観察好期といえる。

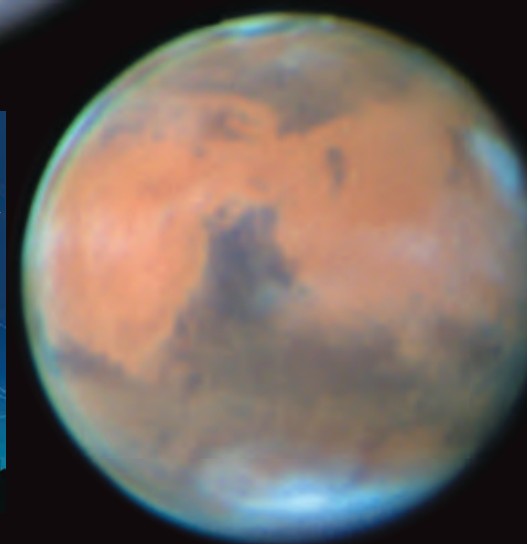


7月31日の火星表面の予想



7月下旬～8月、宵の南天の星空

夏休み期間中は、惑星観察に大忙し!となるはずだ。宵の口、西の空には“宵の明星”金星、南の空には木星、土星、東の空には大接近中の火星が昇ってくる。西から順に天体望遠鏡を使い“惑星クルージング”を楽しもう。ついでに月面も!



8月末ごろの火星表面の予想



いて座・やぎ座の中をうろつく火星の動き

7月31日の大接近前後の火星は、いて座・やぎ座の境界付近で“順行”や“逆行”という複雑な動きを見せる。天球上の「惑星」ということで「惑星」という名前がついた。